

ブダペスト通信

盛田 常夫



2025 年 No. 17 (5 月 21 日)

5 月 18 日の政治関連ニュース

勝ち馬に乗り損ねたオルバン・ヴィクトル

18 日のルーマニアのやり直し大統領選挙について、選挙終盤になってからオルバン首相は、エルディーイのハンガリー人共同体の意思に反して、右派で「ルーマニアのトランプ」を目指すシミオン候補支援を明言した。これにたいして、シミオンは「ハンガリー少数民族への敵意」を表現するスローガンを削除することで応えたが、ルーマニアのハンガリー民族政党はブカレスト市長のニクソル・ダン支援を打ち出した。ハンガリーのメディアは、「オルバン首相がエルディーイを裏切った」と大きく取り上げた。

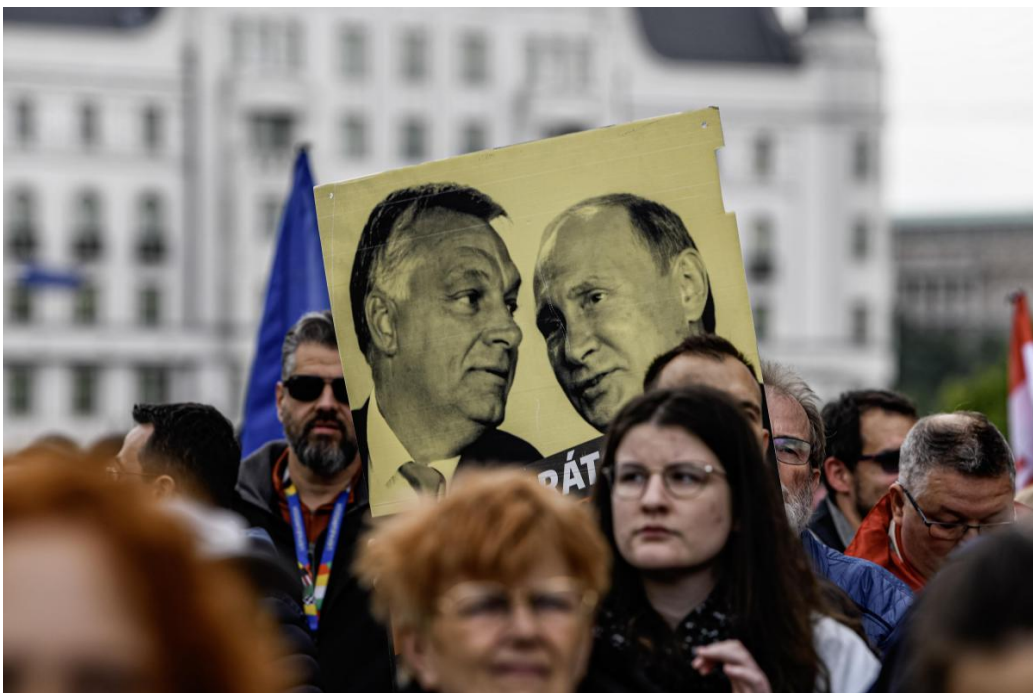
「ルーマニアの主権回復」、「ルーマニアファースト」、「ウクライナ支援反対」で共通点を見出したオルバン・ヴィクトルは、自らの影響力を広げるためにシミオン支援を明言し、エルディーイのハンガリー人共同体の失望を招いた。

選挙結果はダン勝利となり、オルバン・ヴィクトルの目算は外れた。エルディーイのハンガリー人の投票率は7割を超え、ダン候補の勝利に貢献した。ハンガリーの右派のメディアの中には、「オルバン首相、勝ち馬に乗り損ねた」と表現するものもあった。

USAID がハンガリー代表団への情報提供を拒否

Fidesz の欧州議会議員のラスロー・アンドラーシュ（ハンガリー政府 USAID 調査委員）が、政府の委託を受けて、アメリカの USAID を訪問し、ハンガリーへ流れた支援金を受け取った個人や団体の情報を求めた。ロイター通信の17日ニュースでは、USAID の幹部とラスロー・アンドラーシュとの会談が行われたことは事実だが、情報提供は拒否されたと伝えている。

ハンガリーだけでなく、スロヴァキアのフィッツォ首相も同様のアプローチをしており、アメリカの資金を得た人物や団体を特定し、これを「外国の代理人」と指定する策略を練っている。しかし、この種の情報は政府批判の人物や団体の政治的抑圧に利用される可能性が高く、とりあえず USAID の幹部は情報提供を断ったようだ。



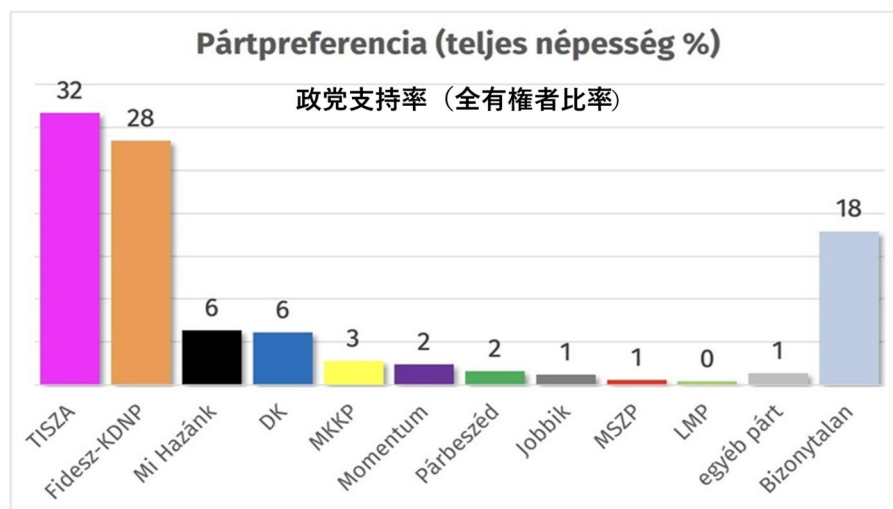
コシュート広場の抗議集会

18日、政府の「プーチン令」に反対する抗議集会が各地で開かれ、ブダペストのコシュート広場にはネット配信するメディアの代表者が集まり、政府の対応を厳しく批判した。興味深いことに、ここには野党の政党代表は参加せず、在野のインフルエンサーやネット配信を行っている若者たちがそれぞれ壇上に立って、集会参加者に呼び掛けた。既存政党の枠組みにとらわれない人々のエネルギーが溢れている。

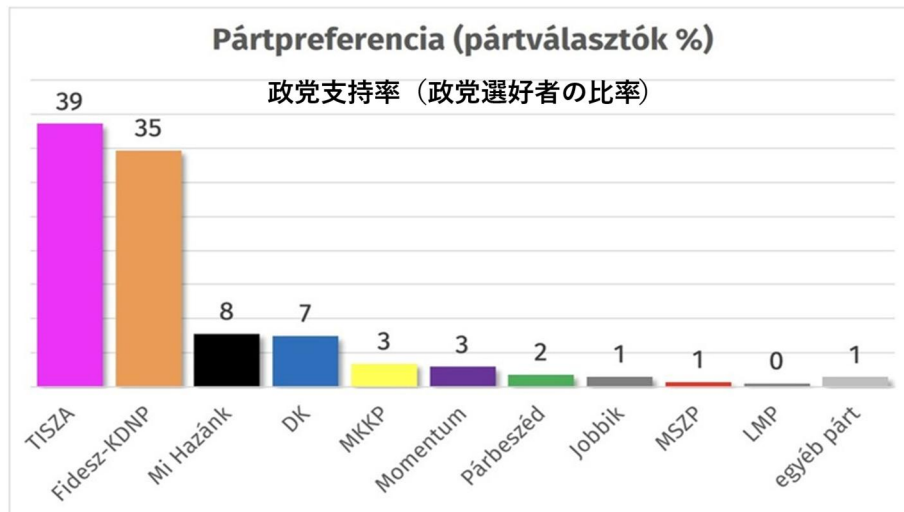


マジャル・ピーテル：全国行脚（ソルノク・ティサ川堤防行進）

最新の世論調査では、Tisza 党が Fidesz との支持率差を広げていると報道されている。現在のところ、5%条項をクリアできる政党は 4 党だが、場合によっては二つの政党だけがクリアするケースもあり得る。



最近の世論調査（Republikon Intézet, 4月9-18日、1500名対象）



マジャル・ピーテルは全国行脚を続けており、18日はソルノーク市に入り、ティサ川堤防沿いを支持者と行進した。Fideszの支持基盤である地方の市町村で、Tisza党が政権に不満を抱いている地方の人々を取り込んでいる。



18日にハンガリー東部の町ハイドゥーハドハーズ（Hajdúhadház）の第二選挙区で行われた市議会議員の補欠選挙では、非政府系候補71%、Fidesz候補29%の圧倒的得票率差で、非政府系候補が当選した。Fideszの地盤である地方の市町村の選挙で、Fideszの惨敗が続いている。

危機感を抱く Fidesz がサイバー戦争開始を宣言

—Harcosok Klubja (Fighting Club)結成集会

Fidesz は Tisza の後塵を拝していることに危機感を募らせ、情報空間を使った戦いを始めようという集会を開いた（18 日午後）。1 万人を収容できる BOK スポーツセンターに Fidesz 支持者を集め、豪華な舞台と照明で集会を盛り上げた。結構な金がかかる行事だが、政権党は巨額のお金を左から右へと動かすことができる。キンキラキンの成金集会そのものである。



全国 106 選挙区から 100 名の「戦士」を指名し、サイバー空間での戦いに挑むことを宣言した。反政府系メディアがネット空間で Fidesz を圧倒していることへの対応である。しかし、若者の多くは Fidesz 離れしており、Fidesz は金で「戦士」を育成するしか方法がない。まさに、「正義」対「金権」の戦いである。